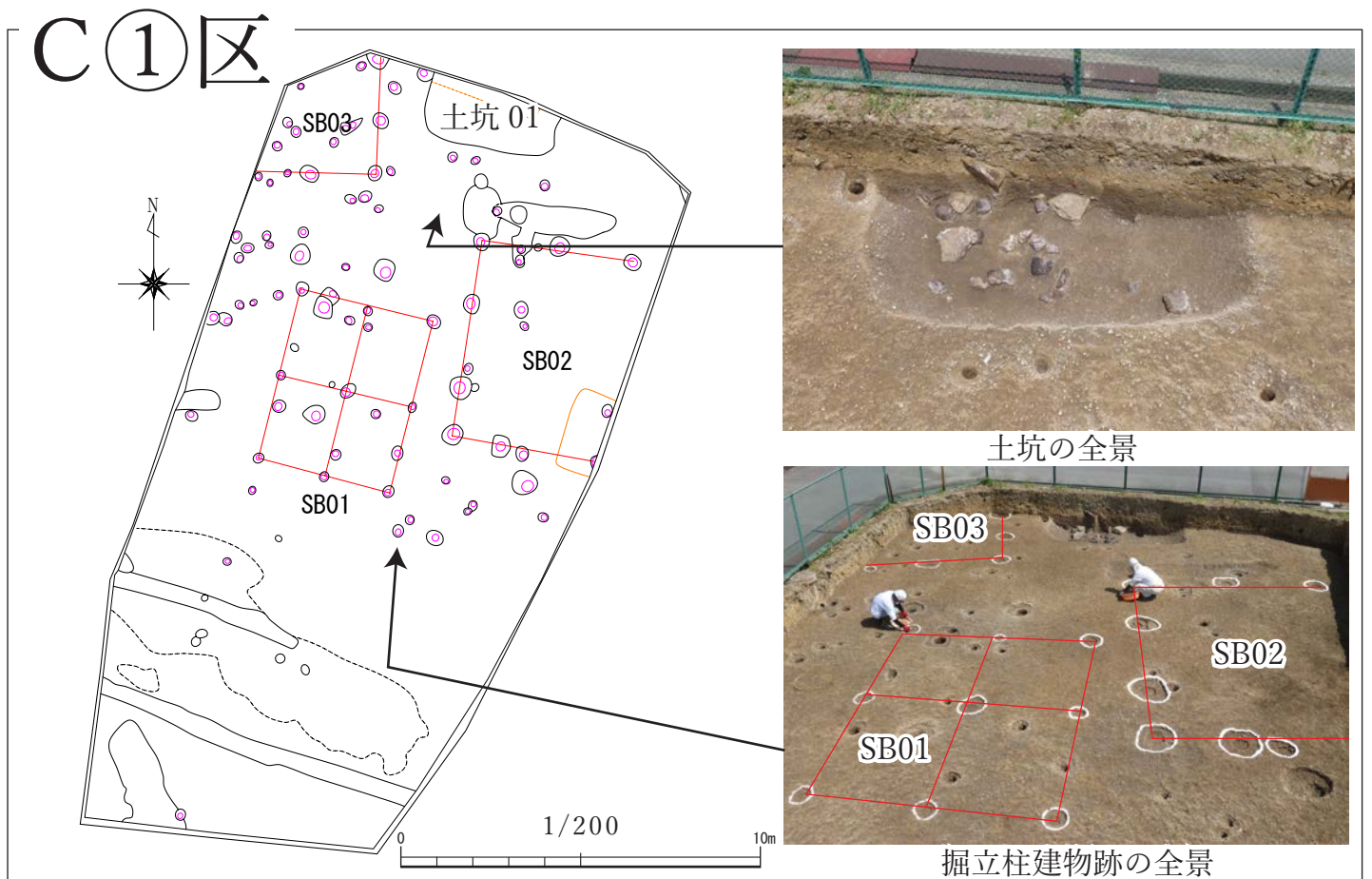




才村遺跡は夢前川下流右岸に立地する遺跡です。昨年度の調査区の北側を調査しています。本調査では2か所の調査区を設け、北からC①区、B②区と呼称しています。現在、C①区とB②区の上層(1面目)は調査を終え、B②区の下層(2面目)を調査しています。これまでの調査で、古墳時代から中世に至る多くの遺構が見つかりました。

【古墳時代～飛鳥時代(約1500～1350年前)】

- B②区の下層(2面目)で竪穴住居跡が20棟以上見つかりました。昨年度調査したものと合わせると40棟以上になり、規模の大きい集落であったことが予想されます。
こがたもっかんぼ
- この他、小児のものと推定される小型木棺墓、直径70～80cmほどの柱穴をもつ桁行3間×梁行3間の掘立柱建物跡なども見つかりました。流路からはこの時期の土器が大量に出土しています。

【奈良～平安時代初め(約1300～1200年前)】

- B②区の上層(1面目)で暗文土器や稜椀など官衙的な様相を示す土器が出土しています。
あんもん りょうわん かんが
- 昨年度の調査でも硯や緑釉陶器など、一般の集落から出土しない特殊な遺物が出土しており、近辺に建物群が存在している可能性があります。
すずり

【平安時代中頃～鎌倉時代(約1000～800年前)】

- C①区で掘立柱建物跡3棟が見つかったほか、B②区上層(1面目)でもこの時代の柱穴がたくさん見つかりました。
- 昨年度の調査で見つかった柱穴と合わせると総数1000基にも及び、多数の掘立柱建物があったものと推定されます。

【室町時代～江戸時代(約500～150年前)】

- 『高尾の高畑』と呼ばれる高台の下層や脇で室町時代の掘立柱建物跡や溜め井戸が見つかり、この高台が形成される以前の土地利用や形成過程が明らかになりました。
た

才村遺跡発掘調査の成果

事業名：（一）広畑青山線社会資本整備総合交付金事業

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部

調査期間：令和2年4月7日～令和2年8月28日（予定）

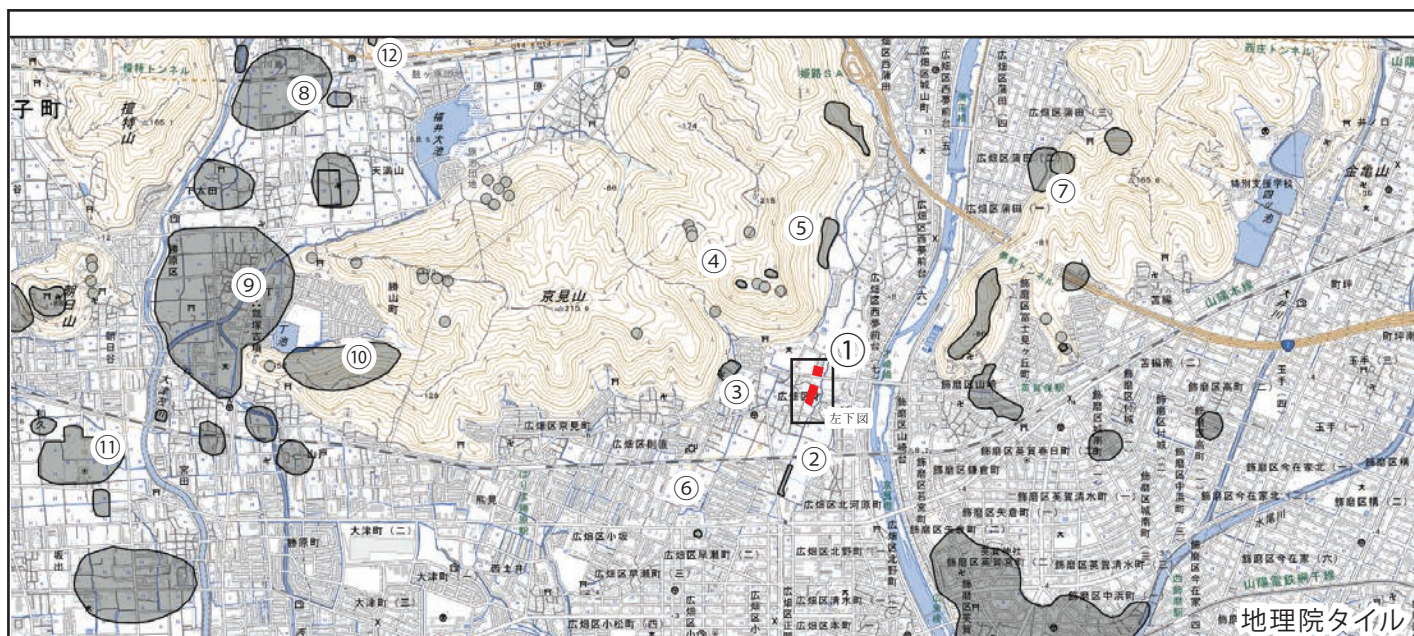
調査面積：約1,700m²

兵庫県教育委員会（公財）兵庫県まちづくり

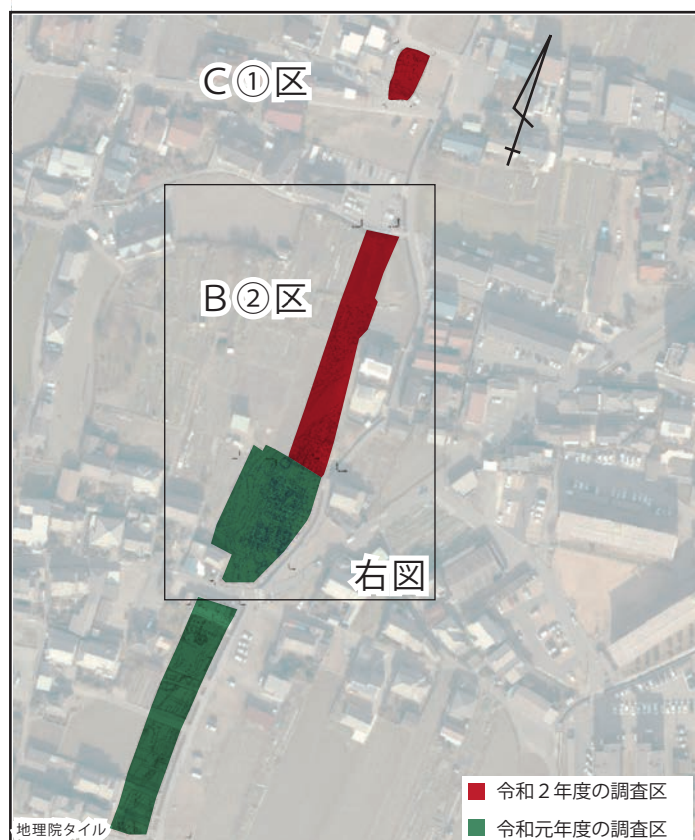
技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町 1-1-1（兵庫県立考古博物館内）

URL: <http://www.hyogo.etc.or.jp>



- ① 才村遺跡 ② 郷着遺跡 ③ 才構跡 ④ 京見山才山頂第1・2号墳他 ⑤ 京見山列石群
⑥ 家中遺跡 ⑦ 山所廃寺 ⑧ 川島遺跡 ⑨ 丁・柳ヶ瀬遺跡 ⑩ 山戸古墳 ⑪ 和久遺跡 ⑫ 黒岡山古墳



B②区 第1面目【奈良時代～鎌倉時代】（約 1300 ～ 800 年前）



掘立柱建物跡



B②区の遠景写真（北西から）



奈良時代の土器出土状況（南から）

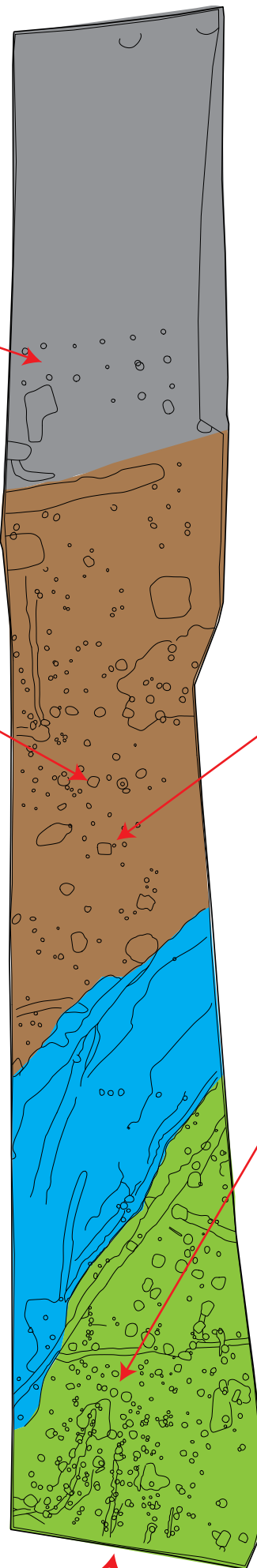


焼土坑（北から）



凡例

- 高台部（高尾の高畑）
- 低地部
- 流路
- 微高地



砥石の出土状況（北西から）



柱穴群の様相（南から）

B②区 第2面目【古墳時代～飛鳥時代】（約 1500 ～ 1350 年前）調査中



竪穴住居跡（南東から）



ぼうすいしゃ

紡錘車の出土状況（北東から）



カマド（南から）



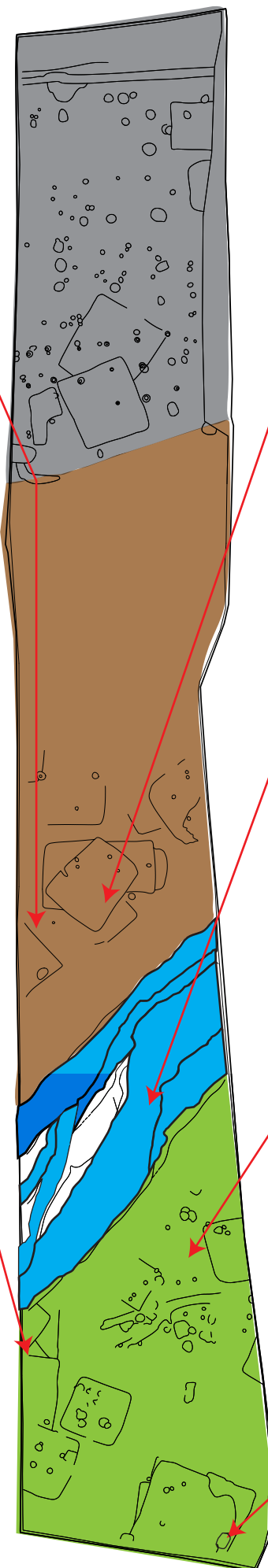
土器の出土状況（北から）



0 20m

凡例

- 高台部（高尾の高畑）
- 低地部
- 流路
- 微高地



サヌカイトの出土状況（南から）



小型木棺墓（西から）